

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	KTBスーパーメタルフレーム工法	担当部署	九州支部
NETIS登録番号	KT-000115-VE	担当者	有水 弘行
社名等	KTB協会・PCフレーム協会	電話番号	092-725-7889
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	本工法は斜面安定用受圧板として、鋼製フレームを使用した法枠アンカー工法で、従来は現場打コンクリート2次製品の法枠で対応していた。本工法により受圧板の軽量化、施工性の向上、自然との調和した景観を考慮した形状が期待できる。 本材は、亜鉛・アルミニウム容射を施した鋼板フレームで完全防錆され優れた耐久性・耐候性を発揮します。中空密閉型で極めて軽量（コンクリート受圧板の1/6）です。角度調整台座により現場で自在に角度調整ができます。軽量で大型重機を必要とせず、耐久性に優れ、製品コストも施工コストも大幅に縮減できます。		
	2. 技術の内容		
	①何について何をやる技術なのか？ ・斜面安定用受圧板として、鋼製フレームを使用した法枠・受圧板アンカー工法 ②従来はどのような技術で対応していたのか？ ・従来、現場打コンクリート法枠やコンクリート2次製品の法枠（プレキャストコンクリート製フレーム）が主流であった。 ③公共工事のどこに適用しますか？ ・斜面や崖面の斜面崩壊や地すべり防止のための法枠アンカー工法 ・擁壁保護のための法枠アンカー工法		
	3. 技術の効果		
	①どこに新規性があるのか？（従来技術として何を改善したか？） ・素材をコンクリートから鋼製にした。 ・コンクリート1色から、多彩な色調になった。 ②期待される効果は？（新技術のメリットは何か？） ・受圧板の軽量化（コンクリート2次製品に比較し1/5～1/6） ・施工性の向上（軽量化により）		
	4. 技術の適用範囲		
	条件 ①自然条件：スーパーメタルフレームが取り付け可能な事 ②現場条件：受圧板設置面が平らに整形できる ③技術提供可能地：技術提供地域については制限無し ④関係法令等：労働安全衛生法 ⑤特に効果の高い適用範囲 ・地山切取り時にすぐにアンカー力を導入できる現場（逆巻き施工） ・高地で作業する現場（軽量のため） ⑥適用できない範囲：オーバーハングのり面等、受圧板設置面が平らに整形できない場所 適用にあたり、関係する基準および引用元：グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説（地盤工学会）平成24年5月31日第1刷・全項目）/グラウンドアンカー施工のための手引書（日本アンカー協会）平成18年6月1日刷・全項目・/KTB スーパーメタルフレームアンカー工法設計・施工の手引き（平成23年8月）		
	5. 活用実績		
	国の機関 343件（九州 40件、九州以外 303件） 自治体 1597件（九州 197件、九州以外 1400件） 民間 72件（九州 6件、九州以外 66件） 【令和6年3月現在】		

6. 写真・図・表

亜鉛・アルミニウム溶射を施した鋼板フレームで完全防錆され、優れた耐久性・耐候性を発揮します。中空密閉型で極めて軽量(コンクリート受圧板の約1/6)です。角度調整台座により現場で自在に角度調整ができます。



スーパーメタルフレームアンカー工法